

： 卷 頭 言 ：

「アグリビジネス創出フェア2009」から思うこと

住友化学 (株)アグロ事業部長 貫 和之



昨年11月に農林水産省により「アグリビジネス創出フェア2009」が開催されたが、初めて民間企業主体の展示会「アグロ・イノベーション2009」と同時開催となった。農林水産省報告によると、フェアへの参加者数は前年の2倍以上で過去最高となった。これまでは農林水産・食品産業分野の大学や試験場等からの参加者が多かったが、今回民間企業からの参加者が大きく増加したとのこと。

農業分野における新技術の実用化・産業化を促進する上で、それに関わるいろいろな民間企業からの参加者の増加は非常に有意義であったと思う。

農林水産省発表では、世界の食料需給は中長期的には人口増加、バイオ燃料原料による需要の増大等により、今後も厳しい食料供給事情が継続し、食料価格は2007年以前に比べ高い水準で、かつ上昇傾向で推移する見通しである。

従って農業は今後ますます重要であり、成長産業としての大きな可能性も有している。

一方、国内の農業は、生産者の減少、高齢化、農業所得の減少等により非常に厳しい状況にある。

行政による、米戸別所得補償モデル事業、水田利活用自給率向上事業、農地法の改正等の農業経営支援策も検討・実施されているが、行政による支援だけでは「元氣な農業」の実現には十分とは言えない。

「元氣な農業」実現のためには、その基盤となる農業の経営力がしっかりする必要がある。

先日、新聞を読んでいると「ニッポンの農力

育てる経営力」という特集が掲載されていた。

その中で下記の点が述べられていた。

- ① 培ってきた高い農業技術力（栽培技術、品種改良等）を基に新たな海外市場の開拓
- ② 農業に企業的な経営手法の導入
- ③ 食の安全・安心志向に対応した農業
- ④ 生産現場と需要家を結ぶ生産物の流通等のコーディネート

すなわち高い農業技術、優れた経営手法、安全で優れた品質管理、生産者と需要家の良好な関係が重要と考えられている。

この意味においても、農作物生産者だけでなく、それに関わる研究者、企業、農作物流通者、消費者をつなぐ交流の場が重要な役割を担ってくると考えられる。

「アグリビジネス創出フェア2009」は、その交流の場として活用でき、また交流のきっかけにも成り得る。

今年も11月に「アグリビジネス創出フェア2010」が昨年同様に開催されるとのことである。ご興味があれば、一度ご参加されたいかがでしょうか。

農業は経営として成り立つならば、本来はやりがいのある仕事である。

自然を相手にし、四季の移り変わりを実感しながら行なえ、また自分の育てた作物を自分で収穫する満足感も味わえる魅力ある仕事である。

今後とも農業資材・技術の提供に限らず、農業を側面から支援していけるよう取り組んでいきたい。